

## ◆文書を iPad で清書しよう

### 1 対象児童生徒（対象学級）の実態

- ・小学部 肢体不自由（脳性まひ）
- ・書字に時間がかかり、普通の大きさの字では、自分の書いた字を後から読み返すと、読めないことがしばしばある。パソコンでの文字入力は何度か行ったことはあったが、「時間がかかり過ぎる。」という意識があり、利用できていなかった。
- ・失敗に対して大変不安が強い。

### 2 指導目標

i P a d で 100 文字程度の文章を入力することができる。

### 3 取組の中心となる教科・領域等

作文指導（国語、学活、総合的な学習）

### 4 使用したアプリ、周辺機器

メモ（標準）

### 5 指導の経過及び児童生徒の変容

(1) ①目標 「下書き文書を i P a d で清書しよう」

②指導期間 8月～10月（計4回）

③内容 国語、総合的な学習、学活などの時間で、下書きとして作成した文を清書として i P a d で作成する。

④児童の変容

<初回> iPad アプリでの文字入力に興味・関心は高く、抵抗感なく取り組めた。音声入力は正確に入力できなかったため、フリック形式による文字入力を自ら選択して行った。最後まで集中して取り組めた。

<9月> 児童生徒会の提出用の文書について、「後から読み返して読める字で文書を作成したい。」と言い、主体的に iPad

で文書を作成した。口頭での文を教員が下書きし、それらを清書する形で文字入力を行った。作成した文書は、教員が、画像としてパソコンで処理し印刷した。

<10月> 100文字を入力するのに10分以内でできるようになった。・・・10分で113文字

(2) ①目標 「i P a d で作文をしよう」 ②指導期間 10月～1月：月に2回（計6回）

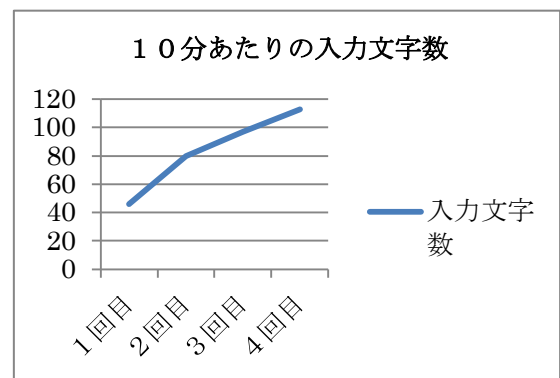
③内容 「1週間を振り返って」という題で、100字程度の作文を、i P a d に直接入力して作成する。作成した文は、学級通信、卒業アルバムに使用する。

④児童の変容

<初回> i P a d による文字入力に慣れていたので、文を考えながらの入力も抵抗感なく取り組めた。どの漢字に変換したら良いかが自信がなかったり、「」をどのように入力するのかがわからなかったりしたため、時間がかかったが、最後まで集中して取り組めた。

<11月> i P a d で作文を作るのは思いのほか時間がかかったので、作文は手書きにしようかと迷っていた。最終的には「i P a d でも早く作文ができるようになりたい。」という思いで、手書きと i P a d を使用しての作文を毎週交互に行うようにした。

<1月> 冬休み明けは久しぶりで作文をするのに時間がかかったが、1月後半は、i P a d による作文が100文字を10分以内で入力できるようになり、国語などで作文をするときも、自ら i P a d で作ることを選択するようになった。



### 6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等）

- ・フリック形式ということで、①入力方法が容易、②一度入力した文字が画面の選択画面上に出るので入力数が少なくて済むという点で、従来のパソコンに比べて容易に入力できた。
- ・iPhone のアプリなので、フリックの表示サイズが2倍に大きくなり、上肢に麻痺がある本児にとって、とても操作しやすかった。